

兵庫 県  
保険医協会

# 西宮 支部 芦屋 ニュース

No. 374  
2025・2・15

発行

連絡先

〒662-0832

兵庫 県保険医協会 西宮・芦屋支部  
兵庫 県西宮市甲風園 1-1-15 法貴皮膚科内  
兵庫 県保険医協会 電話〇七八(三九三)一八〇一

## 阪神・淡路大震災30年の集い(感想文)

### 阪神・淡路大震災―東日本大震災・原発事故―熊本地震―能登半島地震 阪神・淡路大震災から30年 そしてこれからの30年を見据えて

## 地震が起こることを想定した社会の構築が必要

協会と西宮・芦屋支部は、1月18日(土)に西宮市・なるお文化ホールとオンラインで「阪神・淡路大震災30年の集い」を開催し、会員・スタッフ・市民や全国各地の被災地から282人が参加した。

地震学者で神戸大学名誉教授の石橋克彦氏が「『大地動乱の時代』と『原発震災』」をテーマにメイン講演を行い、元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章さんと、環境ジャーナリストでNPO法人「グリーンアキション」代表のアイリーン・美緒子・スミスさんがフロアから発言を行った。

また、支部世話人でNPO法人ストップ・ザ・アスベスト代表の上田進久先生が「阪神・淡路大震災とアスベスト」、石川県七尾市のねがみみらいクリニックの根上昌子先生が「能登半島地震から1年、そして風水害」をテーマにそれぞれ報告を行った。参加した半田伸夫先生の感想を紹介する。



石橋先生は南海トラフ地震に向け社会のあり方を根本的に見直すよう訴えた

あの日から30年。2025年1月18日、西宮市なるお文化ホールで、上記講演会が開催された。

はじめにNPO法人ストップ・ザ・アスベスト代表の上田進久医師から、阪神・淡路大震災でのアスベスト被害は、2005年のいわゆるクボタショックの前の出来事でもあり、明確な実態調査すらされていない。発がん性の高い青石綿の濃度測定を抜きに、白石綿の濃度測定を根拠に、飛散アスベストの危険性が過小評価され、今日にいたっている。早急にアスベスト曝露した人の実態調査と、定期的な検診をする必要があると訴えられた。メイン講演は神戸大学の石橋克彦名誉教授が、「『大地動乱の時代』と『原発震災』」をテーマに講演された。

日本は東に動くアムールプレートと西に動く太平洋プレート、北西に動くフィリピン海プレートの上であり、地殻変動のたびに地震が起こる立地にある。

震災は地震災害を指す言葉のみならず、自然災害に付帯した、人々の人的災難をも含めた意味合いがある。中世までの社会での「震災」と、現代社会の「震災」は異なる。特に都市部での震災では災害規模が極めて大きくなり、その後の復旧にも多大なコストがかかる。

また、地震国日本にとって、数多くの原発があることは極めて高いリスクを負っている(原発震災)。地震が起こることを想定した社会を構築することの必要性を強調された。



アイリーン氏は石橋先生と取り組んだ反原発訴訟や記者会見について発言



小出氏は被災者を切り捨て原発回帰を進める政府を批判した



上田先生は震災当時のアスベスト曝露の危険性について報告



根上先生は能登半島での現在の医療提供体制などについて報告

元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章先生は、国内原発が南海トラフ地震で被害をうけたら、広島原爆の数千倍のエネルギーですさまじい被害になると付け加えた。さらに環境ジャーナリストのアイリーン・美緒子・スミスさんも原発震災のリスクを訴えた。

最後に能登半島地震で被災した、ねがみみらいクリニック院長の根上昌子医師から、超高齢社会の能登地方は、震災で従来の診療を続けること自体が困難となった。そんな中、テレメディスン(遠隔医療)を活用して、地域の郵便局をキーステーションとして、クリニックとオンラインでつなぐことで、オンライン診療ができたことが紹介された。また移動診療所として、マイクロバスに診療所の機能をもたせて、地方を回る方法なども紹介された。過疎の地域こそITが役立つのかもしれない。

地震が起こることは止められないが、その後の生活再建と日常生活をストレス少なく続けるための道筋をいかに効率的に進められるかを、私たちは考えていく必要がある。そんなことを教えていただいた。

また、多くのポスター掲示があり、そこでも活発な意見交換がなされ、きわめて内容の濃い市民公開講座であった。

【西宮市 半田伸夫】



劉揚氏が当時の思い出を振り返りながら二胡を演奏(2面にも当日の模様を掲載)



東北から九州まで、全国から医師・歯科医師、各地の震災被災者、市民らが参加した

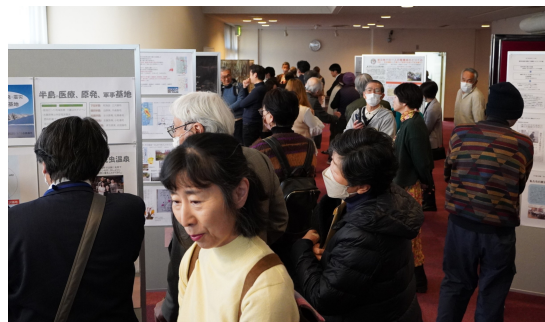


しゃぶしゃぶ料理を囲み親睦を深めた

2024年12月27日、「梅の花」西宮北口店で恒例の支部忘年会を開催。弁護士の鵜飼万貴子先生もお招きし、あわせて10人が参加した。林田英隆副支部長(西宮市・林田クリニック)の乾杯の発声を受け、参加者は料理を囲んで交流を深め、一年の活動を振り返った。

### 一年を振り返り交流楽しむ

#### 2024年支部忘年会



ポスター展示フロアは多くの参加者で賑わった



ポスターの作成者が直接解説を行った



名塩仮設住宅元世話人の作品も展示

### これまでの取り組みなど ポスター展示で発表も

(1面続き)

会場ロビーには、阪神・淡路大震災、東日本大震災、福島第一原発事故、熊本地震等各地の被災地での医療者や住民の取り組みに関するポスターを展示。休憩時間には、作成者がポスターの内容について来場者に直接語り、活発な意見交流が行われた。

また文化企画として、劉揚氏が二胡の演奏を披露。「しあわせ運べるように」や「見上げてごらん夜の星を」などの曲を、切ない調べで演奏した。

参加者からは「石橋先生のお話はとてもわかりやすく、南海トラフ地震を想定した時、今までの生活のあり方を根本的に転換させる必要があることがよく分かった」「福島の事故を無いものにするのは許せず、原発即廃止、再生可能エネルギーへの転換を求めたい」「パネル展示は見るだけでなく説明してくれる人がいて分かりやすかった。面白い企画だと思った」などの感想が寄せられた。「阪神・淡路大震災30年の集い」は書籍化も予定している。



法貴支部長が閉会のあいさつを行った



(左から)司会を務めた広川恵一先生  
阿部由香さん、半田伸夫先生



## 世話人会だより

西宮・芦屋支部は1月24日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。4人が参加した。

#### 【I. 最近の診療経験の交流】

- ① 新型コロナウイルスワクチン接種について
- ② 保険証廃止・マイナ保険証について

#### 【II. 予定・企画(日時確定)】

- ① 健康と医療について語り合う会(2・14)

#### 【III. 予定・企画(日時未定)】

- ① リスクマネジメント研究会

#### 【IV. 報告】

- ① 支部忘年会(24・12・27)
- ② 「阪神・淡路大震災30年の集い」(1・18)

#### 【V. 協会・保団連行事】

- ① 阪神・淡路大震災30年メモリアル集会(1・17)

\*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。次回は2月28日(金)に予定しております。支部についての「意見や企画案など」をお寄せください。



企画のラストでは展示ポスターの作成者、報告者が壇上に上がり挨拶を行った